

女子ハンドボール競技における左利きの右サイドプレイヤーの シュートプレーに関する研究

中西 朋代 (200812014、ハンドボール方法論)

指導教員：河村 レイ子、會田 宏

キーワード：サイドシュート、タイミング

【目的】

ハンドボール競技におけるサイドシュートは、シュート角度が他のポジションに比べて狭いので専門的な技術が要求される。女子のサイドシュートにおいて、ボール保持からシュート達成までの細かいプロセスに着目した研究、競技レベルごとに比較した研究はない。そこで本研究では、左利きの右サイドポジションにおけるシュートプレーを世界、学生のプレイヤー間で比較し、サイドシュートの技術的特性を明確にし、今後の指導に活用できる知見を導くことを目的とする。

【方法】

2009年世界選手権、2010年・2011年関東女子秋季リーグ、2011年関東女子春季リーグの試合を対象し、サイドプレイヤーがボールをもらってからシュート達成に至るまでの動作を観察し、私案の用紙を用いて以下の項目を観察・集計した。

観察項目：①歩数、②ボールの保持、③踏み切り、④助走の方向、⑤ジャンプの方向、⑥体の変化、⑦タイミング、⑧腕の振り、⑨シュートコース、⑩シュートの種類、⑪ディフェンスとの接触

集計結果をレベル別、シュート結果別に比較するために、カイ二乗検定と残差分析を行った。

【結果と考察】

(1) 観察項目とレベルとの関係

ボール保持に関しては、学生に比べ世界レベルでは頭上でのボール保持が多かった。世界レベルの選手はボールのキープと助走の動作を同時に行い、頭上でのボール保持からでもシュート達成していることが考えられる。

助走の方向に関しては、世界レベルではコーナーから、学生レベルではずらしからの助走が最も多く、世界レベルではサイドがコーナーのポジショニングをすることで、相手のディフェンス隊形を広げ、崩しやすくする効果を狙っていることが考えられる。

ジャンプ後の体の変化に関しては、世界レベルでは利き手側への変化が学生レベルに比べ多くみられた。優れたキープ技術や形態をもつ世界レベルのゴールキーパーをかわす際に、利き手側への体の変化は有効であると考えられる。

(2) 観察項目とシュート結果との関係

セーブのタイミングでのシュートはゴールする割合が高い事が明らかになった(表1)。これはセーブすることで、ゴールキーパーの動きに対応したシュートを打つことができ、ノーマルやクイックのタイミングに比べてより高度な駆け引きができることが考えられる。

表1 タイミングとシュート結果の関係

	成功	失敗
セーブ	32(25.6%)*	6(8.8%) [△]
ノーマル	88(70.4%)	60(88.2%)
クイック	5(4%)	2(2.9%)
合計	125(100%)	68(100%)

カイ2乗値=0.016、 $p < 0.05$

*：有意に多い ($p < 0.05$)

△：有意に少ない ($p < 0.05$)

ゴールするシュートの25.6%が流し下に打たれ、ノーゴールのシュートにおける流し下の割合は13.2%であった(カイ2乗値=0.033、 $p < 0.05$)。流し下のコースは最もシュートが成功しやすいコースであることがわかる。

ディフェンスからのプレッシャーが少ないほどシュート成功率は上がることがわかった。これは、ディフェンスのプレッシャーや接触がない方が、最も打ちやすいフォームで余裕を持ってキーパーとの駆け引きができるからであると考えられる。

【結論】

学生レベルに比べ世界レベルでは、頭上でのボール保持からのシュート達成が多く、助走はコーナーから行い、利き手側に体を変化させる傾向にあった。またゴールする割合の高いサイドシュートは、タイミングはセーブ、シュートコースは流し下、そしてディフェンスとの接触が少ないシュートであることがわかった。